

クルーズサマリー

1. 航海情報

- (1) 航海番号： KS-20-13
- (2) 使用船舶： 新青丸
- (3) 航海名称
海洋プラスチック動態の実把握に関する研究
- (4) 主席研究員
津田 敦（東京大学 大気海洋研究所）
- (5) 研究代表者
S20-32 津田 敦（東京大学 大気海洋研究所）
- (6) 研究課題名
S20-32 海洋プラスチック動態の実把握に関する研究
- (7) 航海期間
2020/08/23 - 2020/09/03
- (8) 出港～帰港
函館港西埠頭F岸壁 - 横須賀港 JAMSTEC 専用 2 号栈橋
- (9) 調査海域
西部日本海

2. 調査概要

本航海は、「東京大学—日本財団 FSI 海洋ごみ対策プロジェクト」の実態把握班に属する5研究室が共同で調査を行った航海である。プロジェクトでは海洋プラスチックゴミの動態、特に通常は測定されない1mm以下の微小プラスチック粒子の動態に注目し、今回の航海では、ミニ大洋と呼ばれる日本海で調査した。乗船研究者は、大まかには、物理グループ、化学生物グループ、OMNI グループの3グループに分かれる。海域は、能登沖ライン、山口沖ライン、対馬周辺海域の3海域であり。特に対馬周辺海域では、ニューストンネット、採水、マルチプルコアラーにより、海面から海底までプラスチック粒子の採集を行った。さらに航走中は目視により大型のプラスチックゴミを定量した。航海中に2つの台風が発生したが、船長の適切な判断もあり、ほぼすべての観測をすることができた。試料の分析は下船後となるが、この分析が終了すれば、海洋プラスチック粒子の10 μ mから1mまでのサイズ分布とその鉛直的な配分が明らかになり、モデル予測の検証と高度化にもつながり、海洋プラスチック粒子のライフサイクルを明らかにすることができる。また、今回の航海は、当初NHKの記者が乗船予定であったが、その後、対馬周辺海域において別船舶からの撮影に切

り替えられたほか、多くの映像資料を残すことができた。最後に、観測を支えていただいた、獅子倉船長ら船員の方々、海域調整やコロナウィルス PCR 検査などで調整業務を頂いた機構職員の方々に感謝申し上げます。